

市立赤平総合病院 × 札幌市立大学PERSEAS
市立赤平総合病院医師募集プロジェクト

活動報告書

①まえがき

PERSEAS 概要と市立赤平総合病院との出会い

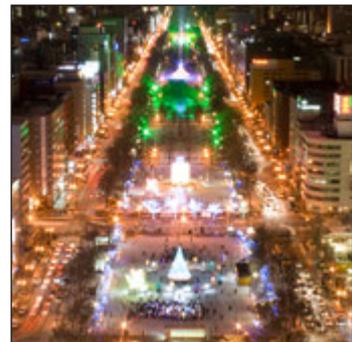
札幌市立大学デザイン学部 2 年次生藤原大記と札幌市立大学デザイン学部 2 年次生金田隼が札幌市立大の正式なサークルとして結成。部員は 1 2 名。顧問は学生時代からデザイナーとして活動している札幌市立大学デザイン学部柿山浩一郎講師。サークルの理念は、「それぞれが自分のやりたい分野での成長を目指す。」

大学に入り、何をすれば自分の成長につながるのか悩んでいた二人は、突如サークルを作ることを決め仲間を集める。その後たくさんの方にご支援いただき、市立赤平総合病院のポスター制作や病院の方々、赤平市の方々との出会いを得る。



PERSEASのこれまでの活動

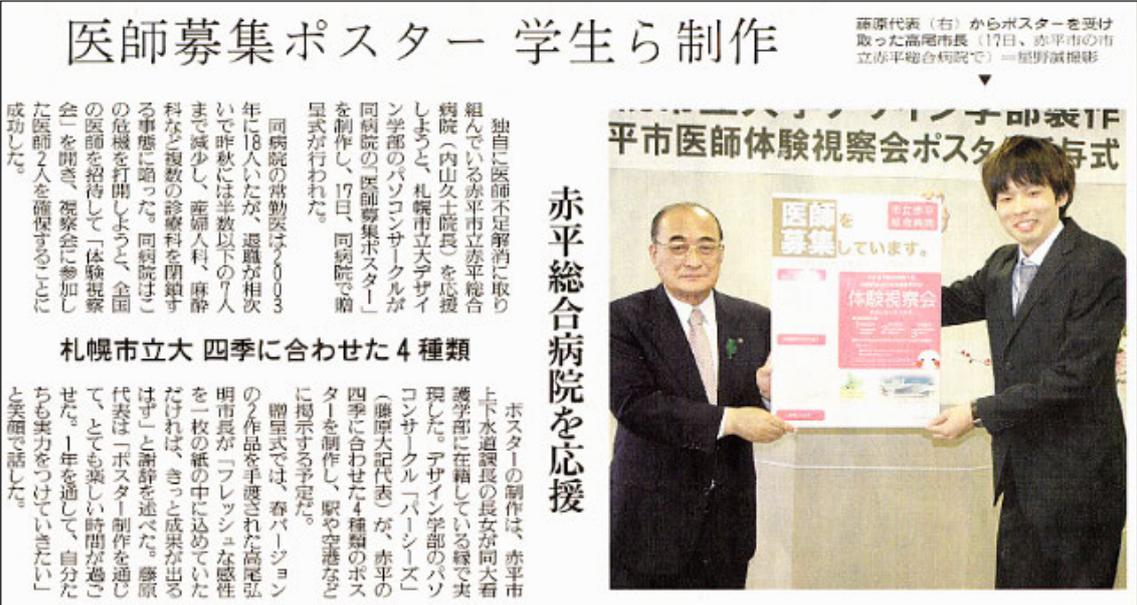
- ・ 2009 年度から一年間を通し、**市立赤平総合病院の医師を募集するためのポスターを製作。**（詳しくは後記する）
- ・ 副部長の金田隼が中心となり、札幌市大通公園で行われた **NOLE ～世界一大きなクリスマスツリープロジェクト～**を開催。PERSEAS のメンバーも数名コアメンバーとして参加する。**協賛金集めから、広報やデザイン、当日の運営まで行った。**
- ・ 基本的には個人個人が学びたい分野について努力し、学外活動等を行っている。



②市立赤平総合病院ポスター制作プロジェクト第一回（春 ver.）

第一回ポスター製作

市立赤平総合病院に医師を呼び込むための体験視察会への参加を増加させるためのポスターを制作。PERSEAS としては初めての学外の活動となる。ポスターを制作したのは**2名**。市立赤平総合病院と札幌市立大学が連携した活動ということで注目を集め、**北海道新聞**や**テレビ番組「朝ズバッ！」**などのメディアへ出演。



医師募集ポスター 学生ら制作

独自に医師不足解消に取り組んでいる赤平市立赤平総合病院（内山久士院長）を応援しようと、札幌市立大デザイン学部のパソコンサークルが同病院の「医師募集ポスター」を制作し、17日、同病院で贈呈式が行われた。

同病院の常勤医は2003年に18人いたが、退職が相次いで昨秋には半数以下の7人まで減少し、産婦人科、麻酔科など複数の診療科を閉鎖する事態に陥った。同病院はこの危機を打開しようと、全国の医師を招待して「体験視察会」を開き、視察会に参加した医師2人を確保することに成功した。

赤平総合病院を応援

ポスターの制作は、赤平市上下水道課長の長女が同大看護学部在籍している縁で実現した。デザイン学部のパソコンサークル「パーシーズ」（藤原大記代表）が、赤平の四季に合わせた4種類のポスターを制作し、駅や空港などに掲示する予定だ。

贈呈式では、春バージョンの2作品を手渡された高尾弘明市長が「フレッシュな感性を一枚の紙の中に込めていたければ、きっと成果が出るはず」と激励を述べた。藤原代表は「ポスター制作を通じて、とても楽しい時間が過ぎて、1年を通して、自分たちも実力をつけていきたい」と笑顔で話した。

札幌市立大 四季に合わせた4種類

藤原代表（右）からポスターを受け取った高尾市長（17日、赤平市の市立赤平総合病院で）＝堀野誠撮影

赤平総合病院医師体験視察会ポスター贈呈式

医師募集しています。体験視察会

第一回赤平市視察会

市立赤平総合病院の方々にご招待いただき、次回ポスター制作のための知識や、資料収集を目的として赤平市への視察会を行った。病院の方々との交流を通し、病棟の案内や紹介も行われ医療の現状について伺うことができた。



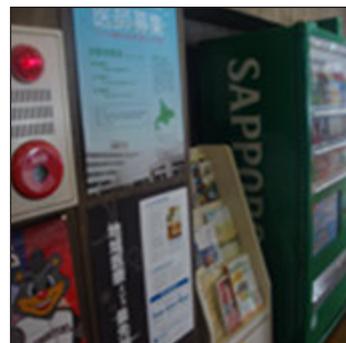
③プロジェクト第二回、第三回（夏、秋 ver.）

第二回、第三回ポスター製作（コンペティション形式）

第二回、第三回では PERSEAS のメンバーの参加を増やし、多くのポスターを制作。**第二回からコンペティション形式**にして、メンバー同士で高めあい作品の質が向上することを目指した。コンペティションの審査員として、顧問の柿山講師、札幌市立大学看護学部スーディー教授、市立赤平総合病院の方々、現役のプロのデザイナーなどに評価を頂き、製作者が各々反省とフィードバックを行った。審査により上位になった作品は、**全国での広報活動**に使用された。

○第二回作品

第二回では、作品を作る際に過去定められていなかった**ターゲットとなる医師像を想定し作成**した。各自がそれぞれ定めたターゲットにより効果的な表現やデザインを目指した。



○第三回受賞作品

第三回では、第二回のコンペティション形式に加えて、**ウェブ上での評価**も行った。そして、**市立赤平総合病院が理想とする医師像をターゲット**に設定して、実際にどのような医師を求めているのかを積極的に提示し、伝わるように努めた。



第二回赤平視察会、交流会

第4回目のポスター制作に向けて、写真撮影や現地の調査を行うために再び赤平市へご招待していただいた。第4回目が当プロジェクトの最後となるため、赤平市の方々との交流を深め、人や町とより親密になり、赤平市や病院について話し合った。

④プロジェクト第4回（冬 ver.）

第四回ポスター製作（学内コンペティション形式）

過去三回のポスター制作や視察会を通し学んだことを活かし、作品の数や質を過去最高にすることを目標にして、**学内コンペティション形式**をとった。札幌市立大学デザイン学部の1, 2年生がポスターを制作し、それを**1) ウェブページ上のアンケートと2) 市立赤平総合病院での紙上アンケート**を通し評価を得た。札幌市立大学デザイン学部・看護学部の教員、学生、市立赤平総合病院の職員や来院された方々、赤平市役所の方々、その他多くの背景をもつ評価者からの投票を集めた。最終的に**200を超える投票**があった。



⑤当プロジェクトの成果

一年を通じた活動の成果

- 1、一年間ポスターの製作を通して市立赤平総合病院と札幌市立大学の間**に大きなつながり**が生まれた。
- 2、メディア等の出演や広報活動を通して市立赤平総合病院と赤平市、札幌市立大学の**認知度が**上がったと期待できる。
- 3、実際に市立赤平総合病院への**問い合わせが増加**した。
- 4、ターゲットを設定し製作した作品を多くの視点からの意見を含めフィードバックすることによって、**デザインすることについての考え方が身についた**。
- 5、第二の故郷ができた。

今後の展開について

ポスターの製作については今回をもって終了となるが、両者の間にできたつながりや経験、成長した部分を活かして、今後も市立赤平総合病院や赤平市にとって自分たちにできること、自分たちにしかできないことを見つけ、力を発揮したい。

⑥第一回作品と、第二回・三回・四回での最優秀作品

第一回ポスター



○第一回製作者
札幌市立大学藤原大記（左）
札幌市立大学金田隼（右）

受賞されたポスター



○第二回受賞 札幌市立大学デザイン学部森谷桃伍



○第三回受賞 札幌市立大学デザイン学部藤原大記



○第四回受賞 札幌市立大学デザイン学部森谷桃伍

⑦新聞への掲載

医師募集ポスター 学生ら制作

藤原代表(右)からポスターを受け取った高尾市長(17日、赤平市の市立赤平総合病院で)一屋野誠撮影

赤平総合病院を応援

独自に医師不足解消に取り組んでいる赤平市立赤平総合病院(内山久士院長)を応援しようと、札幌市立デザイン学部のパソコンサークルが同病院の「医師募集ポスター」を制作し、17日、同病院で贈呈式が行われた。

同病院の常勤医は2003年に18人いたが、退職が相次いで昨秋には半数以下の7人まで減少し、産婦人科、麻酔科など複数の診療科を閉鎖する事態に陥った。同病院はこの危機を打開しようと、全国の医師を招待して「体験視察会」を開き、視察会に参加した医師2人を確保することに成功した。

ポスターの制作は、赤平市上下水道課長の長女が同看護学部在籍していることで実現した。デザイン学部のパソコンサークル「パーシーズ」(藤原大記代表)が、赤平の四季に合わせた4種類のポスターを制作し、駅や空港などに掲示する予定だ。

贈呈式では、春バージョンの作品を手渡された高尾弘明市長が「フレッシュな感性があれば、きっと成果が出るはず」と激励を述べた。藤原代表は「ポスター制作を通じて、とても楽しい時間が過ごせた。1年を通して、自分たちも実力をつけていきたい」と笑顔で話した。

札幌市立大 四季に合わせた4種類

【赤平】医師不足に悩む市立赤平総合病院を応援しようと、札幌市立デザイン学部の学生たちが医師募集のための体験視察会のポスターとパンフレットのデザインを製作し、十七日に同病院で授与式が行われた。体験視察会は昨夏から三回行われ、医師二人の確保につながった。作者の藤原(Ａ3判)、パンフレットの山久士院長は「新しい目を通して、みんなに届いた」と感謝した。贈られたのは二作品で、共に「医師募集」シリーズが制作された。「市民に愛され、信頼される病院」を制作する。(佐竹政治)



○読売新聞

2009年(平成21年)5月18日(月曜日) 北海道

医師不足の市立赤平病院応援 体験視察会ポスター 札市大生がデザイン

【赤平】医師不足に悩む市立赤平総合病院を応援しようと、札幌市立デザイン学部の学生たちが医師募集のための体験視察会のポスターとパンフレットのデザインを製作し、十七日に同病院で授与式が行われた。体験視察会は昨夏から三回行われ、医師二人の確保につながった。作者の藤原(Ａ3判)、パンフレットの山久士院長は「新しい目を通して、みんなに届いた」と感謝した。贈られたのは二作品で、共に「医師募集」シリーズが制作された。「市民に愛され、信頼される病院」を制作する。(佐竹政治)

札幌市立大学デザイン学部製作 赤平市医師体験視察会ポスター授与式



○朝日新聞

赤平総合病院の医師確保に助力 札幌の学生がポスター

赤平市の市立赤平総合病院の医師確保を助けようと、札幌市立デザイン学部の学生らがポスターを制作し、17日、同病院で内山久士院長と高尾弘明市長に手渡した。内山院長は「ポスターが医師確保につながると期待している」と話した。

赤平市出身で同看護学部3年の横岡奈央さん(20)は、赤平市上下水道課長の父孝一さん(54)から医師不足などで病院事業が大赤字になり、市が財政破綻に直面していると聞いた。ふるさとのピンチを救いたいと今年2月、夕張問題を研究する同看護学部のスーティ神崎和代教授に相談。スーティ教授がデザイン学部の柿山浩一郎講師に呼びかけた。

柿山講師はデザインを通じて社会貢献を目指している。顧問を務めるパソコンサークルのデザイン学部2年、藤原大記さん(19)と金田隼さん(20)が中心となって4月から取り組み、A2サイズのポスター2種類を制作した。

今後1年間、季節ごとにポスターを制作していく予定。高尾市長は「ありがたい。都内などに張っていきたい」と話している。

○北海道新聞